

2012年度 第3四半期 連結決算概要

2013年 2月1日
パナソニック株式会社
河井 英明

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

- 本日はご多用のところ、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

- それでは、決算概要について、説明させていただきます。

1. デジタルコンシューマー商品の販売不振により、売上が減少
2. 固定費削減の取組み等により、営業利益は改善
3. 事業構造改革費用の減少等により、税引前利益、当期純利益が黒字化

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- 今回は、第3四半期 3ヶ月ベースの業績を中心に説明いたします。
第3四半期の決算のポイントは、ご覧の3点です。
- 1点目は、デジタルコンシューマー商品の販売不振により、売上が大きく減少したこと。
- 2点目は、売上が大きく減少する中、今年度の固定費削減の取組み等により、営業利益は増益を確保したこと。
- 3点目は、事業構造改革費用の減少等により、税引前利益、当期純利益が、それぞれ黒字転換したことであります。

1. 第3四半期 連結決算概要

2. セグメント別概況

3. 年間業績見通し

- 最初に、第3四半期の連結決算概要をご説明します。

(億円)

		12年度 3Q	11年度 3Q	前年比 / 差
	国内	9,172	10,438	88%
	海外	8,843	9,164	97% (93%)*
売上高		18,015	19,602	92% (90%)* ▲ 1,587
営業利益		346 (1.9%)	▲ 81 (▲ 0.4%)	- +427
税引前利益		93 (0.5%)	▲ 1,912 (▲ 9.8%)	- +2,005
当社株主に 帰属する 当期純利益		614 (3.4%)	▲ 1,976 (▲ 10.1%)	- +2,590

* 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- 第3四半期の決算概要はご覧の通りであります。
- 売上高は、デジタルコンシューマー商品の販売不振により、1兆8,015億円、前年比は92%と落ち込みました。
- 一方、営業利益は346億円、固定費削減等により前年からは427億円の増益となりました。税引前利益、当期純利益は、構造改革費用が減少したことなどにより、それぞれ増益となっております。

(億円)

		12年度 3Q累計	11年度 3Q累計	前年比 / 差	
	国内	27,954	30,802	91%	
	海外	26,443	28,852	92%	(93%) *
売上高		54,397	59,654	91%	(92%) * ▲ 5,257
営業利益		1,220 (2.2%)	395 (0.7%)	308%	+825
税引前利益		▲ 2,694 (▲ 5.0%)	▲ 3,505 (▲ 5.9%)	-	+811
当社株主に 帰属する 当期純利益		▲ 6,238 (▲ 11.5%)	▲ 3,338 (▲ 5.6%)	-	▲ 2,900

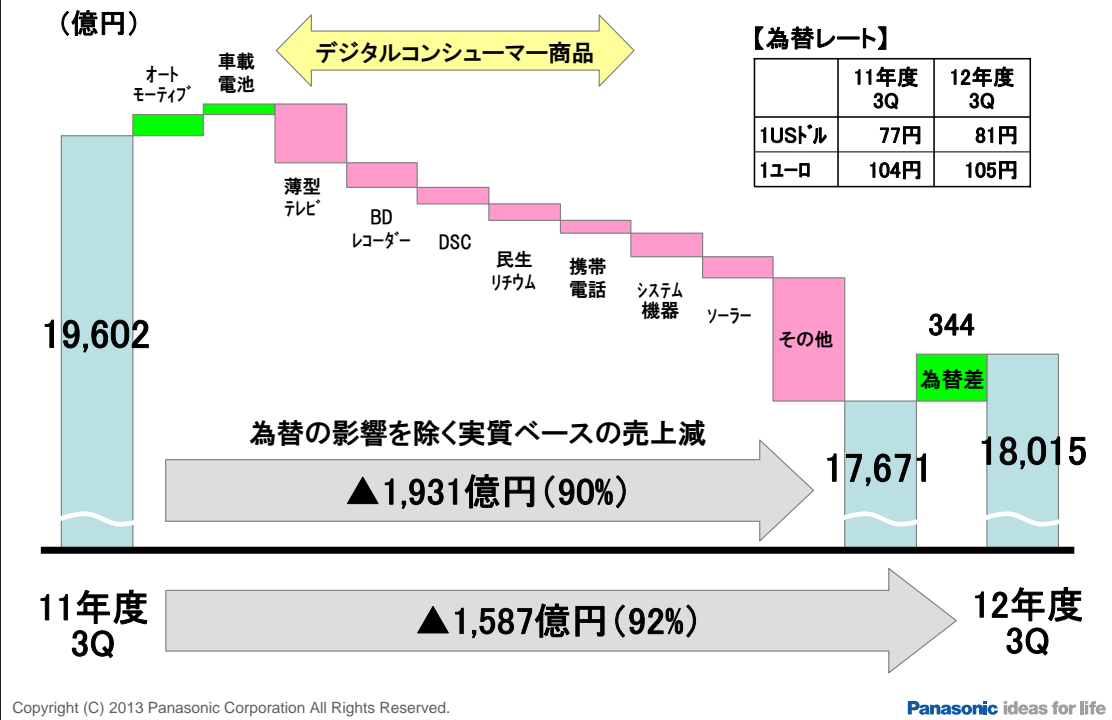
* 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- こちらは、第3四半期累計の決算概要です。
- 第2四半期で計上しました事業構造改革費用と、繰延税金資産の取崩し等により、税引前利益、当期純利益は累計では赤字となりましたが、第3四半期が黒字転換したことで、前四半期の時点から、赤字幅は縮小しております。

第3四半期(3ヶ月) 商品別売上高分析 (前年差) 6



- 第3四半期の売上高は、前年から1,587億円の減収ですが、為替の影響を除く、実質ベースの売上減は1,931億円となります。
- 商品別には、第2四半期に引き続き、カーオーディオなどオートモティブや車載電池の販売が好調でしたが、薄型テレビ、BDレコーダー、デジタルカメラなどのデジタルコンシューマー商品の悪化が大きく影響しました。

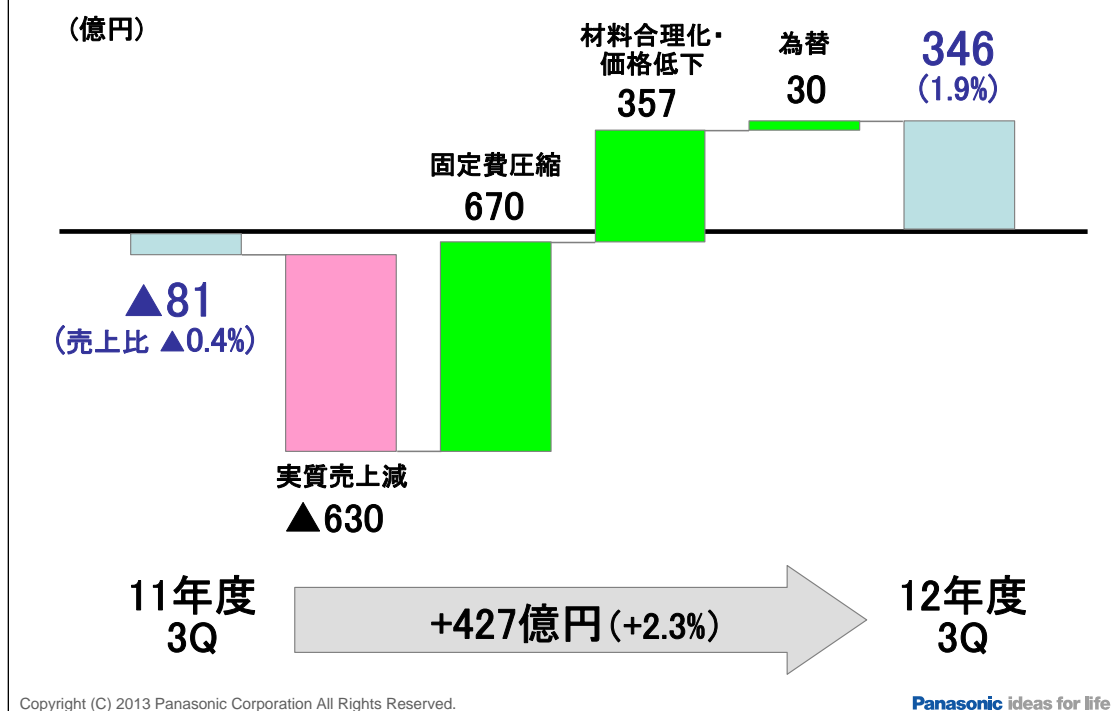
(億円)

	売上高	前年比		構成比(前年差)	
		円ベース	現地通貨ベース		
日本	9,172	88%	-	51%	(▲2%)
米州	2,707	104%	100%	15%	49% (+2%)
欧州	1,792	89%	88%	10%	
アジア	2,157	101%	96%	12%	
中国	2,187	90%	86%	12%	
合計	18,015	92%	90%	100%	

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- こちらは地域別の販売概況です。
- 日本は、AV商品の販売減が響き、減収となりました。
- 米州の販売は、オートモーティブが好調に推移しました。
- 欧州では、AV商品やソーラーの販売が落ち込みました。
- アジアは、AV商品の販売が低調でしたが、アプライアンス、オートモーティブの販売が伸長しました。
- 最後、中国では、アプライアンスを中心に日本製品不買の影響を受けたことで販売が落ち込んでおります。



- 続いて、営業利益の主な増減要因を、前年との比較でご説明します。
- 売上の減少に伴い、630億円の悪化がありましたが、今年度の固定費削減の取組みと、昨年度に実施した事業構造改革の効果で合計670億円、価格低下の影響を上回る材料合理化で357億円 改善しました。
- また、為替が円安に転じたことで30億円のプラス影響があり、合計で427億円の増益となりました。

(億円)

		実績	前年差
営業利益		346	+427
	金融収支	▲ 31	▲ 10
	早期退職一時金 *	▲ 86	+291
	その他 *	▲ 136	+1,297
営業外損益		▲ 253	+1,578
税引前利益		93	+2,005
法人税等		▲ 428	▲ 638
持分法による投資利益		20	+7
非支配持分帰属利益控除前当期純利益		541	+2,650
非支配持分帰属利益		▲ 73	+60
当社株主に帰属する当期純利益		614	+2,590

* 「早期退職一時金」および「その他」に含まれる事業構造改革費用合計 : ▲ 329億円

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- 次に、営業外損益等です。
- 営業利益は346億円ですが、事業構造改革や有価証券の売却等の結果、税引前利益は93億円となりました。前年との比較では、事業構造改革費用が大幅に減少したことにより、2,005億円 改善しております。
- また、国内子会社における事業再編により、繰延税金資産を再評価したこともあり、当期純利益は614億円となりました。

1. 第3四半期 連結決算概要

2. セグメント別概況

3. 年間業績見通し

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- 続いて、セグメント別の概況について、第3四半期3ヶ月ベースの実績を中心にご説明します。

(億円)

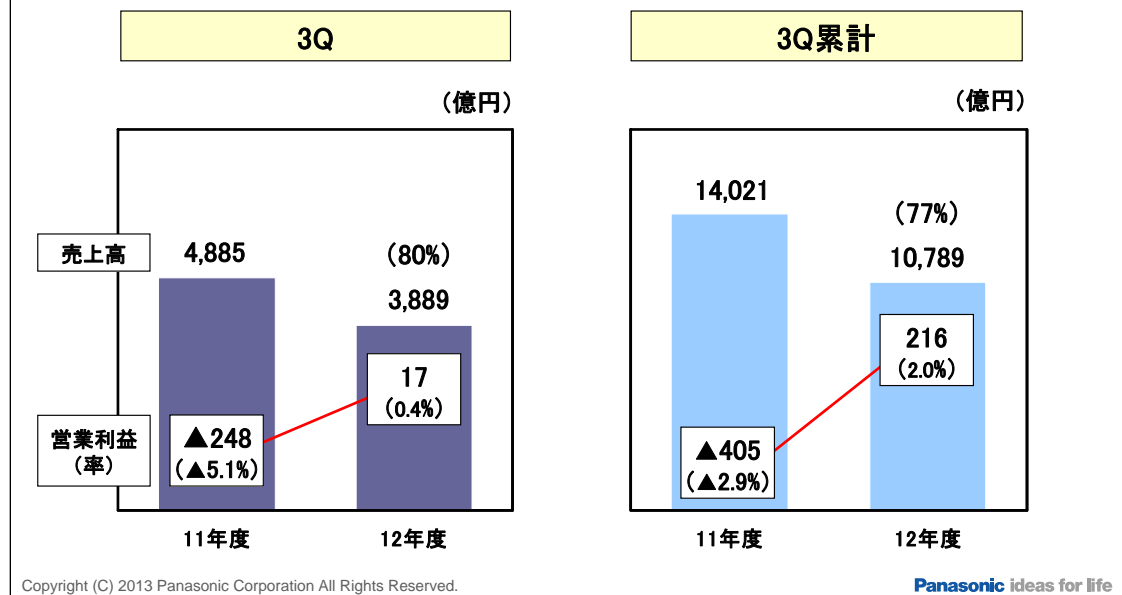
	12年度3Q				12年度3Q累計			
	売上高	前年比	営業利益	前年差	売上高	前年比	営業利益	前年差
AVCネットワークス	3,889	80%	17	+265	10,789	77%	216	+621
アプライアンス	3,831	99%	193	▲43	11,971	101%	703	▲61
システムコミュニケーションズ*	1,525	78%	▲40	▲83	5,098	85%	▲140	▲117
エコソリューションズ	3,998	101%	241	+50	11,401	100%	427	+42
オートモーティブシステムズ*	1,890	112%	32	+7	5,717	128%	119	+87
デバイス	3,366	101%	0	+131	10,302	95%	179	+316
エネルギー	1,423	92%	36	+105	4,348	94%	64	+231
その他	3,146	75%	19	+9	10,129	72%	113	▲44
計	23,068	91%	498	+441	69,755	90%	1,681	+1,075
消去又は全社	▲5,053	-	▲152	▲14	▲15,358	-	▲461	▲250
連結決算	18,015	92%	346	+427	54,397	91%	1,220	+825

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

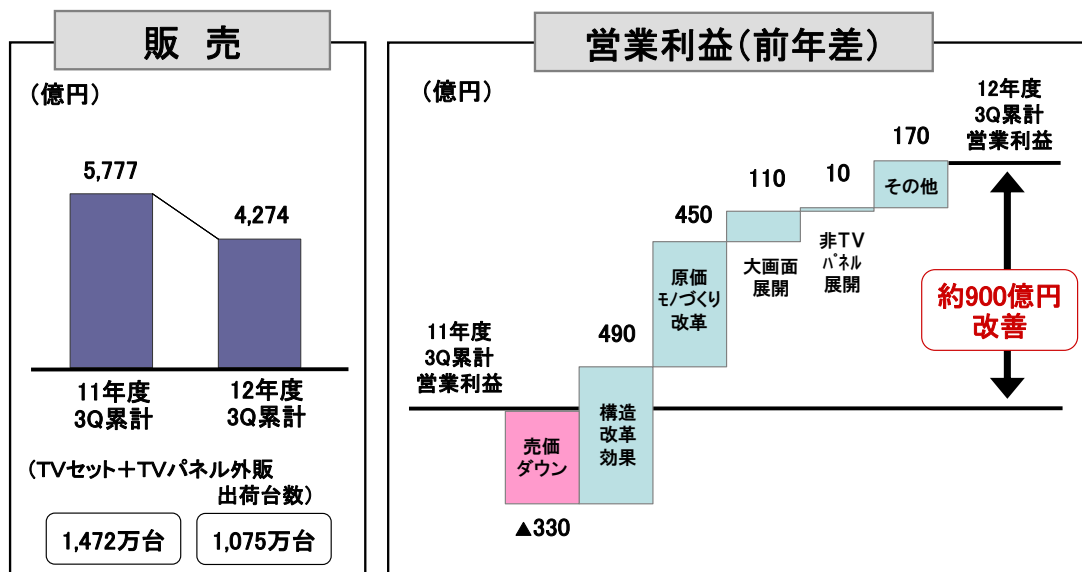
- こちらはセグメントの一覧です。
- 売上は、「オートモーティブシステムズ」が伸長した一方で、「AVCネットワークス」、「システムコミュニケーションズ」が大きく減収となりました。
- 営業利益では、固定費削減や合理化による収益改善が進んだ「AVCネットワークス」、「デバイス」、「エネルギー」が増益となりましたが、「システムコミュニケーションズ」と「アプライアンス」が減益となりました。
- 続いて、セグメント別の実績をご説明します。

薄型テレビの収益改善等により増益



- はじめに「AVCネットワークス」です。
売上は、先進国を中心にデジタルAV商品の需要が大きく落ち込む中、薄型テレビ、BDレコーダー、デジタルカメラの販売が大きく減少し、前年比80%の減収となりました。
- 一方、営業利益は、売上が大きく減少する中でも、薄型テレビにおける不採算モデルの絞り込みや、構造改革効果の刈り取りなどにより、265億円改善しました。

収益改善は予定通り進捗

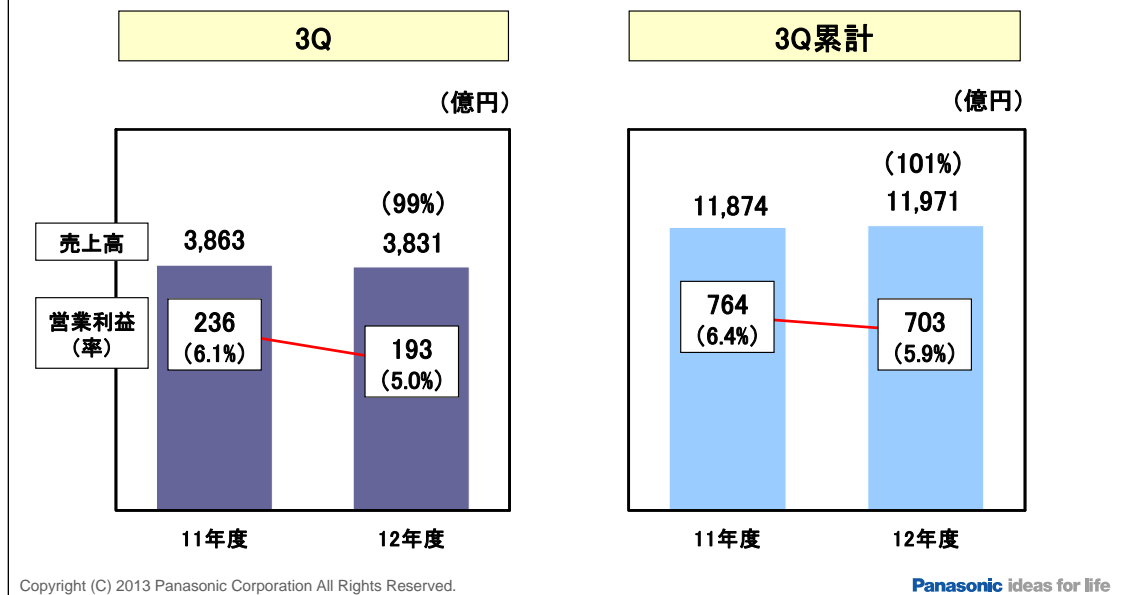


Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

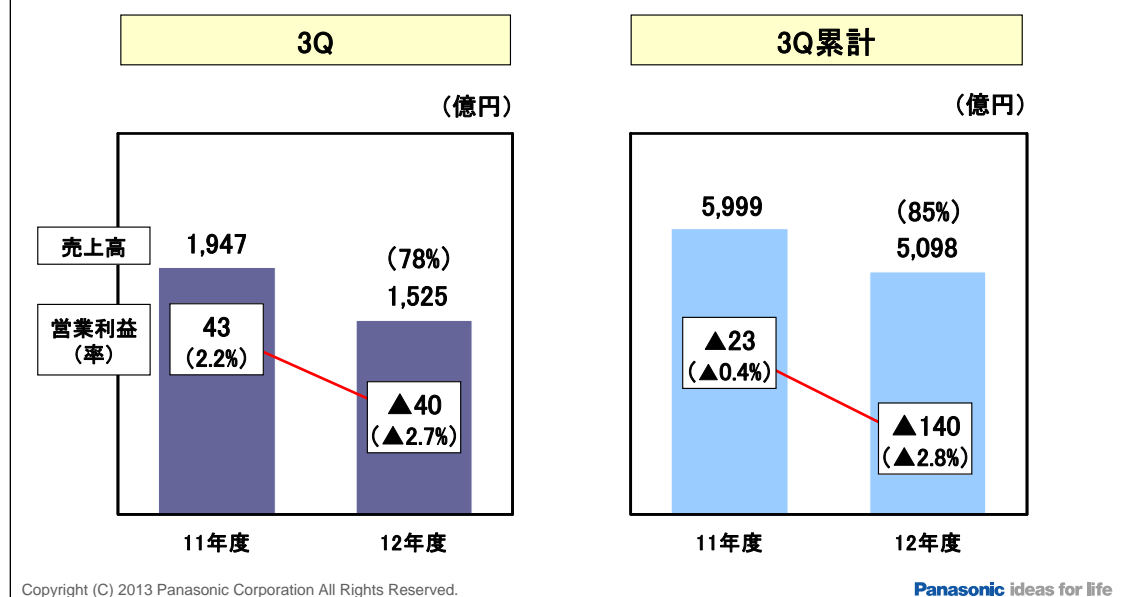
- テレビ／パネル事業は、セット事業での不採算モデルの絞込みや液晶パネルの外部調達推進、パネル事業での非テレビ用途展開など、構造転換が進んでおり、ご覧のように、販売が減少する中でも、収益は着実に改善しております。
- 営業利益は、第3四半期累計で900億円改善しており、年間1,100億円の改善に向けて、ほぼ想定どおりの進捗となっております。

国内、中国での販売減が影響し、減益



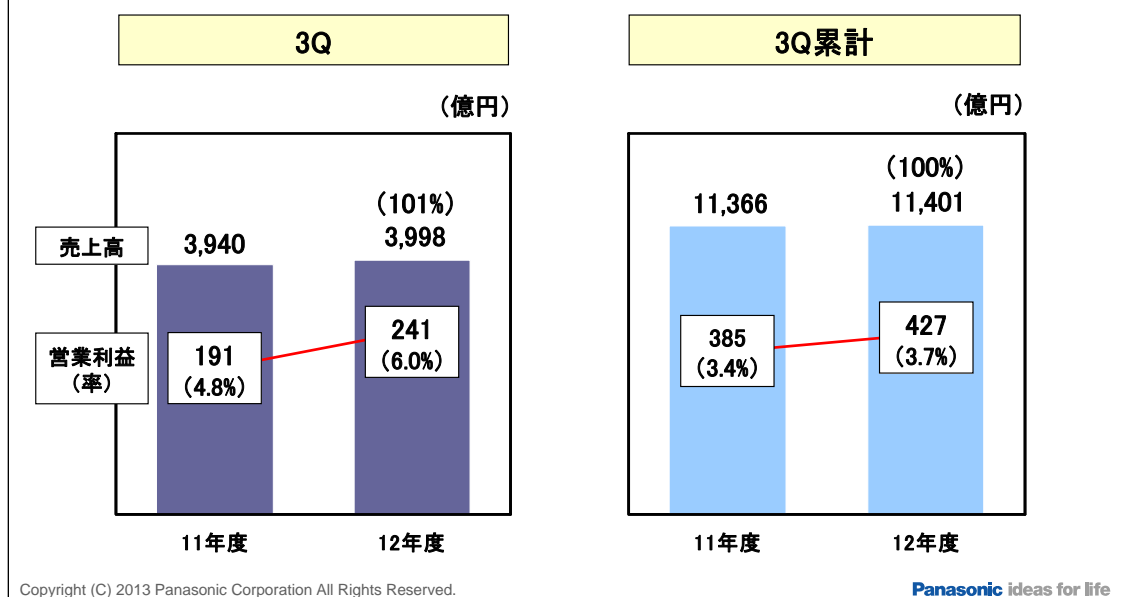
- 「アプライアンス」の売上は、主力の国内や、日本製品不買の影響を受けた中国での販売が低調に推移したものの、重点地域であるアジアでの販売が順調に増加し、前年並みとなりました。
- 営業利益は、国内、中国での販売減により、特にエアコンの収益が悪化し、前年からは減益となりました。

システム関連機器、携帯電話の不振で損失計上



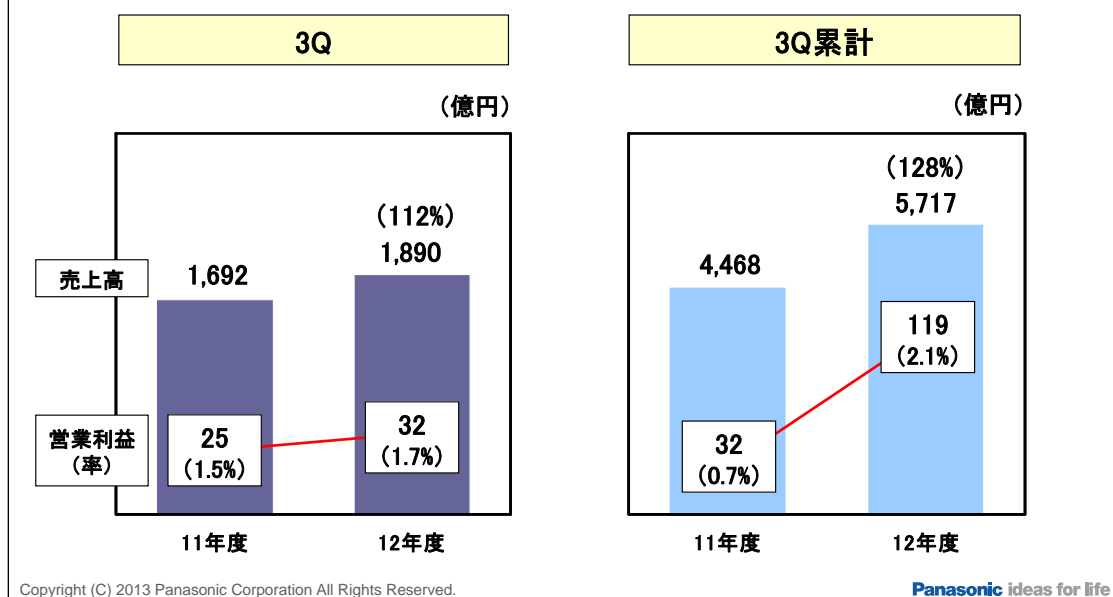
- 次に、「システムコミュニケーションズ」では、成長事業であるセキュリティカメラの販売は増加したものの、携帯電話や小型複合機、PBXなどの販売が減少し、前年比78%の減収。
- 営業利益は、携帯電話事業等で固定費削減に取り組んだものの、減収の影響が大きく、40億円の損失を計上しました。前年からも83億円の悪化となっております。

ライティング事業等の販売増により増益



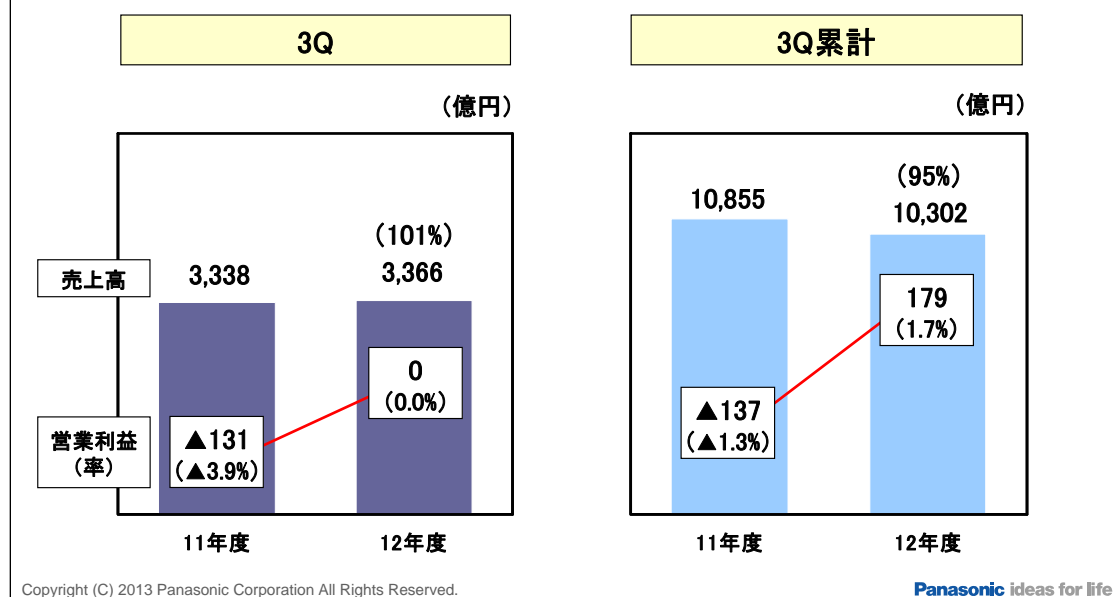
- 「エコソリューションズ」の売上は、ソーラーの販売が減少しましたが、LEDを中心とするライティング事業や配線器具などのエネルギーシステム事業の販売が増加し、101%の増収となりました。
- 営業利益も、販売増に加え、合理化推進等の収益改善が進み、50億円の増益となりました。
- 第3四半期の営業利益率は6%まで向上しており、アプライアンスと並んで、当社の収益の柱になっております。

北米、アジア地域での販売増により、増益



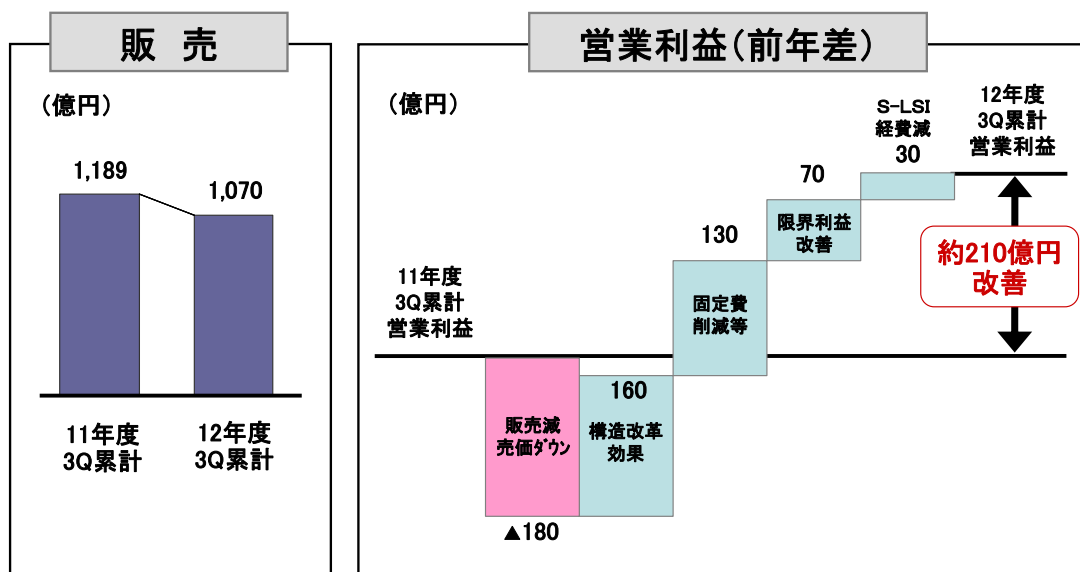
- 「オートモーティブシステムズ」では、自動車販売が好調な北米やアジア向けの販売が好調で、前年比112%の増収となりました。
- 営業利益も、売上の増加により、7億円の増益となりましたが、将来に向けた商品開発の費用が増加したため、営業利益率は1.7%にとどまっております。
- この事業では、車の進化に合わせた中長期視点での商品開発がポイントとなります。
将来の成長に向けて、グローバル各地のカーメーカー様との協業を通じて、既存事業のみならず、EV関連やコックピットなどの新事業に積極的に取り組んでおります。

販売増、半導体の収益改善等により増益



- 次に、「デバイス」では、半導体や光ピックアップの販売が減少しましたが、スマートフォン向けが好調に推移した制御機器の販売増や、タブレット向け液晶パネルの売上が加わったことで、前年比101%の増収となりました。
- 営業利益は、これらの販売増に加え、半導体の収益改善などにより、前年からは131億円の改善となりました。

構造改革効果等で収益改善

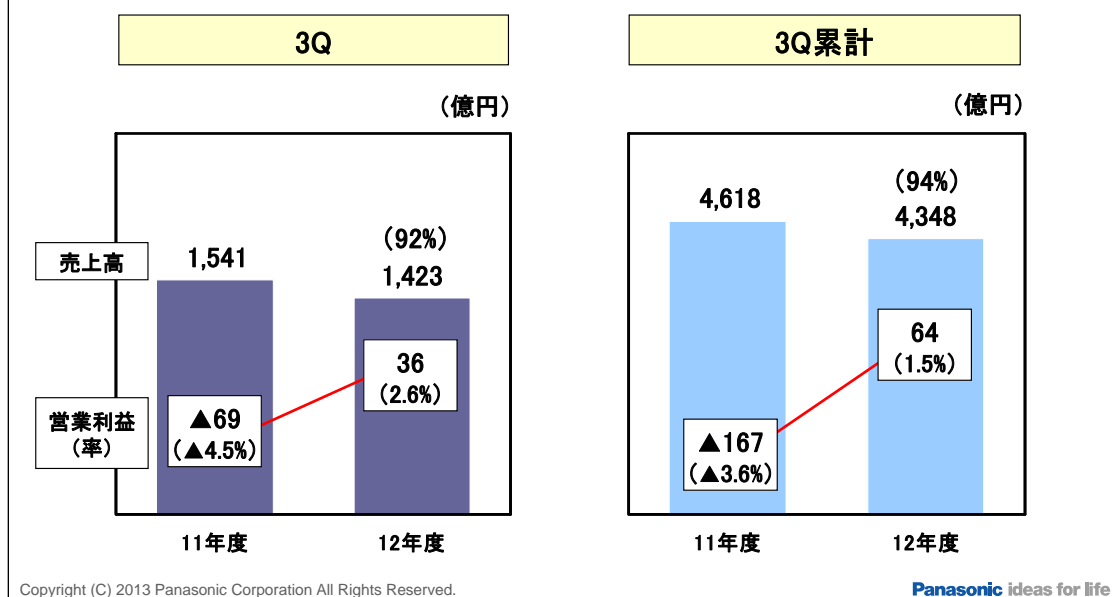


Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

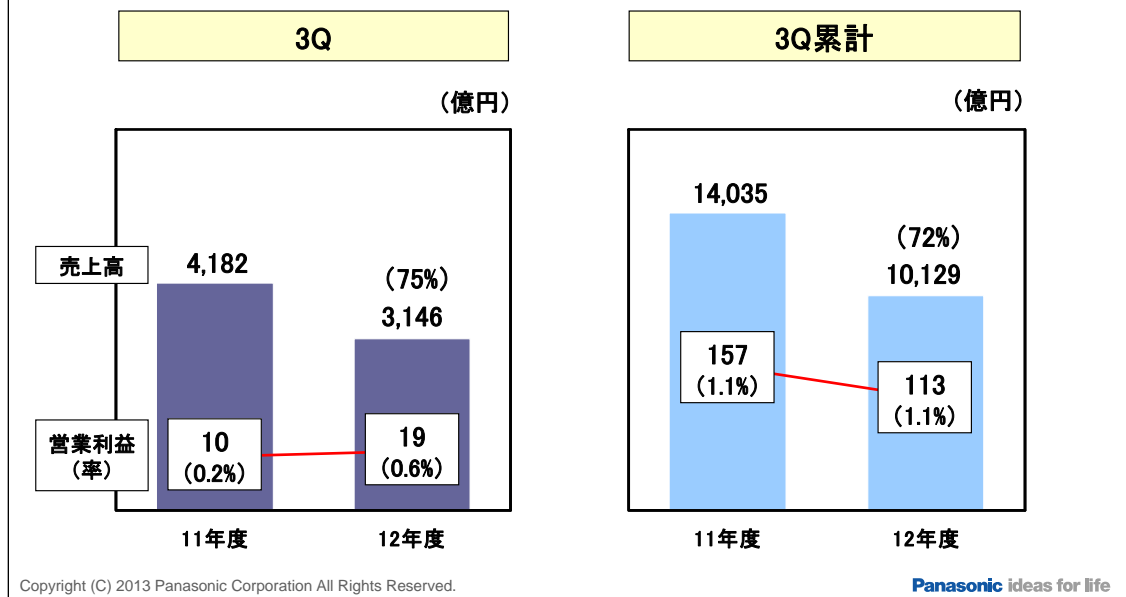
- こちらは半導体事業の収益改善状況を示したものです。
- AV商品を中心とするセットメーカーの生産が伸びず、依然として赤字の状態が継続しておりますが、構造改革効果などにより、第3四半期累計で210億円の収益改善となりました。
- AV商品の需要が想定以上に落ち込んでおり、収益の改善幅は当初の想定を下回っております。

民生リチウム電池の合理化効果等により、収益改善



- 「エネルギー」の売上は、車載用電池が、環境対応車の市場拡大を受けて伸長しましたが、民生リチウムイオン電池やソーラーの売上が減少し、前年比92%の減収。
- 営業利益は、中国生産を拡大している民生リチウムイオン電池の合理化効果や、構造改革効果などにより、前年からは105億円の改善となりました。

三洋電機直轄部門の収益改善により、増益



- 最後、「その他」セグメントは、前年比75%の減収ですが、これは、2011年度に実施した三洋電機関連の事業譲渡の影響などによるものです。
- 営業利益は、三洋電機直轄部門の収益改善などにより、増益となりました。

(億円)

		3Q		3Q累計	
		実績	前年比/差	実績	前年比/差
ヘルスケア社	売上高	334	104%	987	100%
	営業利益	20	▲ 1	59	+ 8
MS社 *	売上高	272	84%	1,093	87%
	営業利益	12	▲ 19	125	▲ 51

* マニュファクチャリングソリューションズ社

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- こちらは、「その他」セグメントに含まれる2社の実績です。
- ヘルスケア社は、売上は増加したものの、血糖値センサーの固定費増加等により、利益は横ばいとなりました。
- マニュファクチャリングソリューションズ社は、中国企業の投資抑制等により、減収減益となりました。

1. 第3四半期 連結決算概要

2. セグメント別概況

3. 年間業績見通し

○ 最後に、年間の業績見通しについてご説明します。

10月公表見通しから変更なし

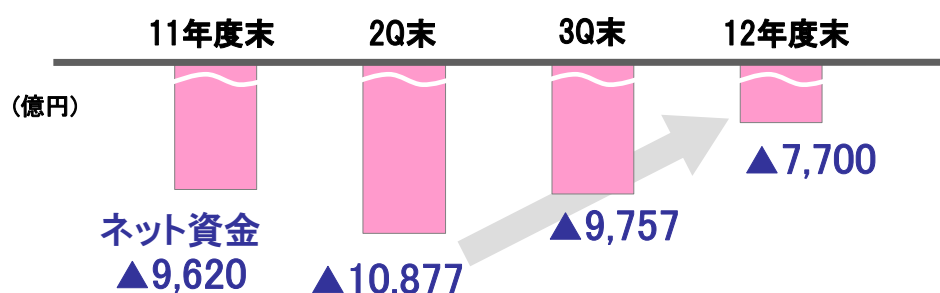
(億円)

	12年度 見通し	11年度 実績	前年差
売上高	73,000	78,462	▲5,462
営業利益	1,400 (1.9%)	437 (0.6%)	+963
税引前利益	▲3,650 (▲5.0%)	▲8,128 (▲10.4%)	+4,478
当社株主に 帰属する 当期純利益	▲7,650 (▲10.5%)	▲7,722 (▲9.8%)	+72

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life

- ご覧の通り、10月に公表した修正見通しから変更して
おりません。



<CF経営実践プロジェクト 進捗状況>

	目標	見通し
投資抑制	200	200
資産売却・流動化	1,100	1,300
在庫削減	400	300
運転資本圧縮	300	200
合計	2,000	2,000

着実にネット資金を改善し、中期計画に繋げる

- 最後に、資金創出の進捗状況についてご説明します。
- 前回ご説明しました、キャッシュフロー経営実践プロジェクトによる資金の創出は、ご覧の通り順調に進捗しております。
- 設備投資は、当初計画から200億円抑制、資産売却・流動化では、保有株式、不動産の売却や流動化を中心に1,300億円を創出します。加えて、在庫削減やその他運転資本の圧縮により、目標通り2,000億円を創出できる見込みです。
- ネット資金の改善を着実に進め、来年度からの中期計画につなげてまいります。



Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

- 第3四半期決算のご説明は以上になります。
当社を取り巻く環境は刻一刻と変化しておりますが、
これに対応する施策もスピードを上げて実行してまいります。

- なお、中期計画は3月下旬に発表させていただく予定です。
今後も、当社へのより一層のご理解とご支援をお願い
いたします。

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述 (forward-looking statements)」(米国1933年証券法第27条Aおよび米国1934年証券取引所法第21条Eに規定される意味を有する)に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づいたものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、米国1934年証券取引所法に基づく今後の米国証券取引委員会への届出等において当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- 米国、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- 多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- 為替相場の変動(特に円、米ドル、ユーロ、人民元、アジア諸国の各通貨ならびにパナソニックグループが事業を行っている地域の通貨またはパナソニックグループの資産および負債が表記されている通貨)
- 資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- 急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入するパナソニックグループの能力
- 他企業との提携またはM&A(パナソニック電工および三洋電機の完全子会社化後の事業再編を含む)で期待どおりの成果を上げられない可能性
- パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向
- 多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持するパナソニックグループの能力
- 製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- 第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- 諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等(直接・間接を問わない)
- パナソニックグループが保有する有価証券およびその他資産の時価や有形固定資産、のれんなどの長期性資産および繰延税金資産等の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- 地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

※営業利益(損失)は、日本の会計慣行に従い、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。米国で一般に公正妥当と認められた会計原則では、連結損益計算書においてその他の特定の費用(長期性資産の評価減や構造改革費用等)は営業利益(損失)に含まれます。

Copyright (C) 2013 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic ideas for life